西光寺だより

第一四九号　令和五年　一月一日発行

新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

二〇二三年、新しい年がはじまりました。
本年こそ平和で健やかな年であるよう願うことであります。
一月一日を迎え例年どおり元旦会法要を厳修いたしました。
変わらずに来て下さる皆さまと変わらずに見守って下さる阿弥陀さまへ感謝のお勤めと今ある命の尊さをお味わいしたことであります。
幸せはつかむものじゃなく　気づくもの。
私たちはさまざまなことがあるたびに一喜一憂してしまう存在ですが、だからこそ目の前の大切なことに目を向け、感謝の思いに気づきながら精進したいと思うことであります。
今年は親鸞聖人がお生まれになって８５０年、そして浄土真宗がひらかれて８００年の年になります。
親鸞聖人がおられたからこそ、仏さまのお救いにあずかることができ、こうして皆様とお出会いするができました。長い時を経てなお浄土真宗のみ教えは私たちのご縁をも繋いでいただいています。
四月二日、本山で親鸞聖人御誕生８５０年・立教開宗８００年慶讃法要があります。今回は各寺院７人という制限の中ではありますが希望される方は西光寺までよろしくお願い致します。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

合　掌

■今月のカレンダー■

昨年からご要望がありました、カレンダーに書いてある言葉の説明を聞かせてほしいとのご意見をいただき、■今月のカレンダー■と題して説明書きを載せたいと思います。

この世のことは　何事も何事も　お念仏の助縁

私たちは自分の日常生活や社会での出来事と、仏教に出遇うということは別々のことと考えがちですが、お念仏する中でひとつのこととして考えてみました。
修行に破れ、失意の中に比叡山を下りられた親鸞さまは、結婚されご家族との生活を送られました。家族生活、社会生活をなさりながら師法然さまから教えられたとおり「本願を信じ念仏申さば仏と成る」と生きられました。
この生き方は、それまでの仏教観を完全に覆したといえます。
山の中で出家という形態をとりながら、さとりをめざすという仏教から、家族生活、社会生活から起こってくるさまざまな生活の諸問題を念仏をとなえる機縁とする仏教に変わったのです。
このことによって、どのような生き方をしている人でも、つまりすべての人々がお念仏のみ教えに出遇い、仏になる機会を得たと言っても過言ではないでしょう。
さて、社会生活を営むうえで最も大切なことのひとつとして、「知恩」ということがあります。知恩とは、私を育んでくれたすべての人々、私のいのちを維持するために食となったすべてのいのち、私を成長させてくれたさまざまな出来事を恩と知る心です。

『今日のことば』第六四集の中に
自己中心の自我意識は、育てられたことを当然のことと当たり前にして、私があれもした、これもしたという思いを心の底にもっていたのです。仏教の知識は増えていたかも知れないが、身の言

動は無明の迷いそのものだったのです。
縁起の法に沿って内省して、歩んできた人生のあるがままを冷静に見る時、両親のお育て、隣近所の人間関係、友人、親戚付き合い、地域社会、学校、関わったすべてに人びと等々、ガンジス川の砂の数ほどの因や縁によってお育ていただいたのでした。
人間に生まれながら、身の凡夫性は免れませんが、本願の心をいただき、「本当の人間になろうよ」と願われ、そして人間から仏へと導かれるのです。

と、ご自身のお聴聞の内容を振り返られました。
「知恩」を「お育て」と表現され、身の回りに起こることすべてに感謝して生きられるお姿が、私の胸に強く伝わってきます。
「知恩」という心で身の回りを見ると、私と切り離されたものは一切存在せず、そのすべての出来事を真実から呼びかける声として聞くという姿勢が育つのではないでしょうか。
まさに浄土真宗のご門徒としてこの社会を生きるとき、阿弥陀さまの光に照らされることによって、自身の凡夫性に目覚め、良いこともそうでないことも、私を人間として生かし、さらには仏へと導くご縁となりました。
すべてのことやものに対し「ありがとう」と感謝の心を持ちながら生きていきたいですね。南無阿弥陀仏

◆先月の報告◆

①十二月五日（月）～六日（火）京都西本願寺にて念仏奉仕団に参加してまいりました。今回は人数制限の中でありましたので住職一人の参加でありました。けれど、三年ぶりということもあり新鮮の中に緊張感を交えてのひと時でありました。
久しぶりの両堂でのお勤めに感動しながら、清掃奉仕をさせていただきました。ゆったりと味わえた時間でありました。

②十二月三十一日（土）西光寺鐘楼にて除夜の鐘を行いました。一年の締めくくりとして、いろんな思いをよみがえらせながら、そして、新たな年を迎えるという気持ちを加えての鐘付きでありました。
寒い中でありましたが近隣の方々に来ていただき、本堂で手を合わせながら思いをかみしめたことでありました。

本願寺念仏奉仕団

除夜の鐘

元旦会法要